

令和元年度いばらきっ子郷土検定問題 解答と解説

結城市 解答と解説

組	番	氏名
---	---	----

番号	解 説	答
1	結城市の花に制定されている花は、ユリです。その清楚さは「紬の里」結城市に独特の風情をかもし出し、花姿(はなすがた)の謙虚さは結城市を象徴してくれるということから選ばれました。	4
2	戦国時代の末期、結城第18代結城秀康(ゆうき ひでやす)の時代に、城の西側に、明確な都市計画に基づいた新たな城下町が建設されました。町の中心には東西に伸びる3本の道路と、南北に伸びる4本の道路をつくり、そこに四方から入る7本の道路を取り付けて、町の周囲には防御のために御朱印堀(ごしゅいんぼり)と呼ばれる大きな堀をめぐらしました。	1
3	古語拾遺(ごしゅうい)は平安時代の神道(しんとう)資料です。古語拾遺には、結城の地名が記述されています。	3
4	長井市(山形県)、メーサイ市(タイ)、メッヘレン市(ベルギー)は、姉妹都市です。福井市(福井県)は結城家18代当主の結城秀康(ゆうき ひでやす)公が関ヶ原の戦いの後、福井藩初代藩主となった歴史的な繋がりを縁として、2002年(平成14年)4月13日に友好都市提携が行われました。	4
5	結城紬一反分(いったんぶん・着物一着分)を作るには、繭(まゆ)は約2,000個必要です。結城紬は、国の重要無形文化財に指定されています。	2
6	結城市のゆるキャラの名前は「まゆげった」です。名前の由来は結城市のちなんで、繭(まゆ)と下駄(げた)で「まゆげった」となりました。「まゆげった」は男の子で、誕生日は3月15日(年齢不詳)、明るく人なつっこい性格です。好きなことはお祭やイベントで、嫌いなことはいじめや暴力です。「～った!」が口癖です。	1
7	結城市の観光振興策の一環として、市内の名所・旧跡等で優れた景観・風情を有する場所を結城百選として選定しました。選定した「結城百選」については、市内外にPRするとともに、新たな観光資源(新名所)として活用することを目的とし、神社仏閣、史跡・文化財、自然景観・都市景観や、生活空間を選定しています。現在結城百選は118か所あります。	2
8	1956年(昭和31年)4月24日に、結城紬の平織りが、国の重要無形文化財に指定されました。重要系文化財結城紬の保持団体である本場結城紬保持会は、「糸つむぎ」「餅(かすり)くくり」「地機(じばた)織り」の3つの工程に直接携わり、長年の経験を有する高度な技術を持った会員によって構成されており、今もなお受け継がれています。	2
9	結城晴朝(ゆうき はるとも)は結城家17代当主です。豊臣秀吉(とよとみ ひでよし)の小田原・北条氏攻めに参加し、徳川家康(とくがわ いえやす)の子で秀吉の養子となった「秀康(ひでやす)」を養子として迎えました。晴朝が作らせたと言われる御手杵(おてぎね)の檜は、東京大空襲の際に焼失しましたが、現在は復元した檜を結城蔵美館にて展示しております。	3
10	結城市内には、現在ゆで饅頭(まんじゅう)を販売するお店がたくさんあります。ゆで饅頭は、江戸時代末期に疫病(えきびょう)が流行したとき、当時の殿様が病払いに神輿(みこし)を奉納するとともに民衆にふるまったといわれています。	1
11	「翔べ 羽ばたけ そして未来へ」として、45年ぶりに茨城で開催となった国民体育大会では、県民のみなさんを対象とする「デモンストレーションスポーツ」の中で、パークゴルフが結城市で開催されます。正式競技ではバレーボール(少年女子)が開催されました。	4
12	まゆげったが、「いきいき茨城ゆめ国体2019・いきいき茨城ゆめ大会2019」実行委員会が企画する「幸福の黄色いいばキャラプロジェクト」に合わせて、「ラッキーまゆげった」に大変身しました。黄色い眉毛とはっぴが特徴です。	2
13	1907年(明治40年)、結城市に県内で初めて電話が開通しました。	3
14	2020年(令和2年)に開催される東京オリンピック・パラリンピック競技大会に向け、日本の自治体と大会参加国・地域の住民等が、スポーツ・文化・経済などを通じて交流し、地域の活性化等に貢献する「ホストタウン」として、本市がカザフスタン共和国の相手国として登録されました。同国空手連盟の事前キャンプ実施のほか、交流イベントや、カザフスタン共和国を市民の皆様へ紹介する企画などを検討しています。	2
15	「夏祭り」を作っている農家の方も、作付面積も毎年少しずつ増えています。「夏休み」という名前のトウモロコシは実在しますが、品種名は「ドルチェヘブン」と言います。	1
16	きぬ川ふれあいホタル祭りは、800匹のホタルたちが放つ小さな光が幻想的な空間のお祭りです。ホタル観賞以外にも地元のお囃子、民謡・民舞など様々な催しがあります。	4
17	結城市の木に制定されている木は、クワ(桑)です。結城市の伝統にゆかりがあり、また、結城紬・養蚕業に深い関係がある桑は、市内に昔から多く植栽され、「紬の街」にふさわしい木であるということから結城紬とともに結城市の成長を願って選ばれました。	4
18	結城の桐下駄は室町時代から、桐たんすは江戸時代から作り始められ、桐下駄は日本3大産地、桐たんすは日本8大産地の1つとして数えられ、共に国の伝統工芸品や、結城市の結城ブランドに認定されています。	2
19	土蔵(どぞう)とは、日本の伝統的な建築様式の一つで、外壁を土壁として漆喰(しっくい)などで仕上げられるものです。倉庫や保管庫として建てられるもののほか、保管庫と店舗(てんぼ)を兼ねて建てられるものもあります。店舗・住居を兼ねるものは「見世蔵(店蔵)(みせぐら)」と呼ばれることもあります。	3
20	蔵美館は今年で開館5周年を迎えました。本蔵と袖蔵の2棟で構成されており、本蔵では新たな芸術文化を創造・情報発信として地元作家の作品の展示・販売、袖蔵では歴史、文化資料の収蔵・公開を行っています。結城蔵美館5周年記念事業として結城晴朝(ゆうきはるとも)公家督(かどく)相続460年祭を行いました。	1
21	水野忠邦(みずの ただくに)は、1841年(天保12年)、第11代将軍徳川家斉(とくがわ いえなり)の死後、老中首座となり、江戸時代の三大改革の一つ「天保の改革」を行いました。忠邦は、唐津(からつ)藩(佐賀県)・浜松藩(静岡県)の藩主であり、山川(やまかわ)と直接関係はありませんが、山川の地は、水野氏の初代忠元(ただもと)が、大坂夏の陣の功績により、三万石を与えられて初めて大名にとりたてられたゆかりの土地であり、20年後駿河(するが)へ国替えとなった後も、11代忠邦まで水野家歴代当主の墓が山川の万松(ばんしょう)寺(江戸時代に焼失)に建てられました。	4
22	結城秀康(ゆうき ひでやす)は、徳川家康(とくがわ いえやす)の次男として生まれ、1584年(天正12年)に豊臣秀吉(とよとみ ひでよし)の養子となった後、1590年(天正18年)に結城晴朝(ゆうきはるとも)の養子となり、結城家18代当主となりました。結城では、新城下町(現在の北部市街地)の建設を行いました。1601年(慶長6年)、越前国福井へ国替えになりました。	2
23	新川和江(しんかわ かずえ)は、結城市の出身で、小学校の頃より野口雨情(のぐち うじょう)などの童謡に親しみ、定型詩などを作る文学少女でした。女学校在学中、近くに疎開してきた西條八十(さいじょう やそ)に師の手ほどきを受けました。結城市民の歌を作詩し、後に結城市名誉市民にもなりました。	3
24	吉田用水は、江戸時代に結城台地の新田開発のために作られた用水で、現在の下野市元吉田付近の鬼怒川から分水し、結城市、八千代町を通過して、坂東市と常総市にまたがる菅生(すがお)沼に注いでいます。	4
25	与謝蕪村(よさぶそん)は、1742年(寛保2年)27歳の時、下総国結城(現在の結城市)の砂岡雁宕(いさおか がんとう)のもとを訪れ、約10年間結城地方に滞在しました。	3